

事業概況

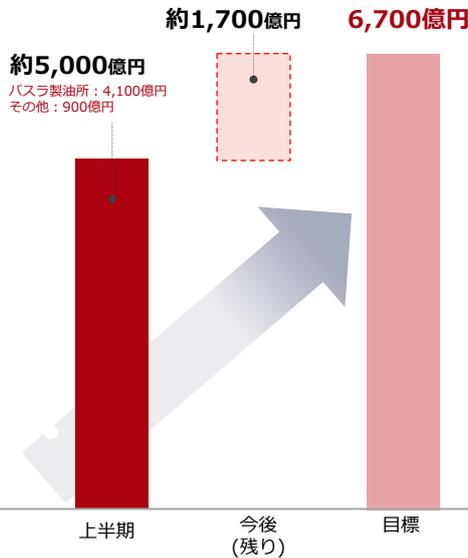
日揮ホールディングス株式会社
代表取締役社長COO 石塚 忠

目次

1. 総合エンジニアリング事業の受注状況
2. 海外分野
3. バスラ製油所近代化プロジェクトを正式受注
4. LNGカナダの進捗
5. 国内分野
6. 機能材製造業事業の状況
7. DXを活用したプロジェクト遂行の競争力向上
8. 環境技術のビジネス化を加速

1. 総合エンジニアリング事業の受注状況

JGC



受注目標達成に向けて前進

2. 海外分野

JGC

	オイル&ガス分野	インフラストラクチャー分野
上半期受注実績	約4,700億円	約14億円
2020年度受注目標	4,000億円	1,400億円
上半期の主な受注案件	<ul style="list-style-type: none"> ■ サウジアラビア ガス処理 ■ イラク 製油所近代化 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アジア 医療関連製造設備 (FS)
下半期の主な注力案件	<ul style="list-style-type: none"> ■ カタール LNG ■ サウジアラビア ガス処理 ■ オマーン LNGバンカリング ■ インド 石油化学 等 	<ul style="list-style-type: none"> ■ アジア LPG受入基地 ■ アジア 廃棄物発電 等

下半期の方針

オイル&ガス分野：依然としてマーケット環境は不透明。実現可能性の高い案件に注力し、更なる上積みを目指す。

インフラ分野：期待していた複数案件が翌年度へずれ込み。受注目標の達成は厳しい状況。将来に向けた種まきとして、来年度以降具体化する案件のFEEDの受注に注力

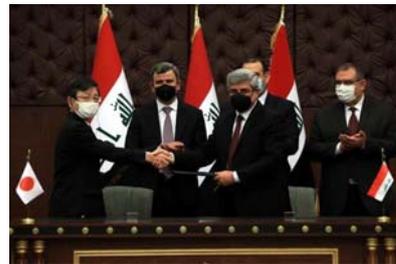
3. バスラ製油所近代化プロジェクトを正式受注 **JGC**

イラクの復興・経済発展に貢献

**経済効果** 45億ドル
(石油製品輸入による外貨流出)

**雇用創出** 7,000人 (建設時)
+
2,000人 (操業時)

**工事遂行** 陸上輸送が可能な
中小型モジュールを
最大限活用



4. LNGカナダの進捗 **JGC**

着実に主要マイルストーンを達成



建設現場における杭打ちの
マイルストーンを達成



主要機器の出荷が完了

5. 国内分野

JGC

上半期受注実績

約**290**億円

2020年度受注目標

1,300億円

上半期の主な受注案件

- 医薬品製造設備
- 保守管理
- メンテナンス 等

下半期の主な注力案件

- バイオマス発電（複数）
- 太陽光発電
- LNG火力発電 等

下半期の方針

複数の再生可能エネルギー案件（太陽光発電、バイオマス発電所）を確実に受注し、受注目標の達成に留まらず、更なる上積みを目指す

6. 機能材製造事業の状況

JGC

	2020年度目標	上半期実績
売上高	420 億円	約 200 億円
セグメント利益	50 億円	約 27 億円

下半期の方針

COVID-19と米中貿易摩擦の影響を懸念。ただし、半導体分野は設備投資再開の兆し。国内外で営業活動を強化し、業績目標の達成を目指す

7. DXを活用したプロジェクト遂行の競争力向上 **JGC**

英国のソフトウェア企業MODS社に資本参加

会社名	MODS Management Ltd.
所在地	英国・アバディーン
事業内容	既設プラント向けコミッションング・メンテナンスサポート、およびメンテナンス向けシステム開発・ライセンス供与、新設プラントのEPC向けシステム開発・ライセンス供与

- AWP*の実装を目指し、同社と建設デジタル化システムを共同開発。イラク・バスラ製油所近代化プロジェクトでも適用予定
*AWP (Advanced Work Packaging):プロジェクト遂行の各フェーズの作業を細分化し、建設工事と関連付けて管理することで、工事遂行上のボトルネックを解消し、建設工事における手待ち時間の排除や効率性の向上を図ろうとするアプローチ。
- 建設業務のデジタル化に加え、今後設計業務、調達業務のデジタル化を推進、2年後を目途にEPC全体のデジタル化を目指す

8. 環境技術のビジネス化を推進 **JGC**

技術開発とビジネス化の一貫遂行で取り組みを加速

- 持続可能な社会に貢献する「低炭素・脱炭素エンジニアリング」、「新エネルギー」、「資源循環」を中心にビジネスを構築
- 9月1日付で専門部署である「サステナビリティ協創部」に技術開発機能を統合し、50名体制に拡充

廃プラスチックのガス化ケミカルリサイクル

- 廃プラスチックをガス化し、アンモニアやオレフィンなどに利用可能な合成ガスへと転換
- 10月に、荏原環境プラント、宇部興産、昭和電工と、廃プラスチックから合成ガスを生産するプロセスであるEUPの再実施許諾契約を締結



水素エネルギーキャリアとしてのCO2フリーアンモニア活用の推進

- アンモニアは燃焼してもCO2を排出しないため、水素エネルギーキャリアのみならず、発電エネルギーとして直接燃焼が可能
- 国内外で複数のアンモニア製造プラント案件のFEEDに関わる引き合いが来ている



将来の見通しに関するご注意事項



本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

日揮ホールディングス株式会社
グループ経営推進部
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel:045-682-8026 Fax:045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com